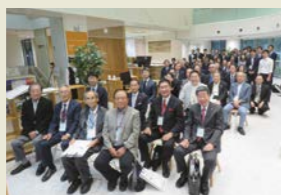


「岐阜大学経営者の会」設立総会を開催しました

令和7年10月4日(土)

OKB岐阜大学プラザにて「岐阜大学経営者の会」設立総会が開催されました。本会は、「挑戦と共創で、未来を拓く会」を理念に掲げ、岐阜大学で学んだ経営者が世代や業種を越えて交流を深め、相互のネットワークを通じて新たな価値を創出するとともに、母校および地域社会の発展に寄与することを目的に設立されたものです。当日は、吉田学長をはじめ大学執行部や卒業生、経営者など、計65名が参加し、盛況のうちに発足を迎えました。



吉田学長が「第31回 中山恒明賞」を受賞しました

令和7年10月16日(木)～18日(土)

第63回日本癌治療学会学術集会において、吉田学長が「第31回中山恒明賞」を受賞しました。この賞は日本癌治療学会から、がん治療・診断・予防の分野で顕著な業績を挙げた研究者に贈られる名誉ある賞であり、がん外科領域における最高峰の栄誉の一つ。吉田学長による「消化器癌における分子病理学的解析と集学的治療開発に関する研究」が、分子レベルでの病態解明と治療法の革新に大きく貢献したとして今回の受賞に至りました。



大学会館食堂「API DINING」の命名記念式典を開催しました

令和7年11月17日(月)

大学会館食堂を新たに「API DINING」と命名する、記念式典が開催されました。式典には、アピ株式会社より野々垣代表取締役社長をはじめとする関係者、本学からは吉田学長、王副学長、高橋副学長補佐などが出席。大学会館食堂はアピ株式会社との連携を象徴する施設として新たな一歩を踏み出しました。この愛称は令和11年10月31日までの4年間使用され、命名権事業で得られる収益は本学の教育及び研究の発展・向上に役立てられます。



医学部附属病院の岩田尚教授が日本内視鏡外科学会の「大上賞」を受賞しました

令和7年12月11日(木)～13日(土)

医学部附属病院呼吸器外科長の岩田尚教授が、日本内視鏡外科学会において「第18回 大上賞」を受賞しました。この賞は、内視鏡外科学の発展と普及に著しく貢献した者1名に、年に1度贈られる賞で、国内の内視鏡外科に携わる医師たちにとって最高の栄誉とされています。岐阜大学からの同賞受賞は今回が初。岩田教授は「伝統ある大上賞を拝受し、身に余る光栄です。今後も益々精進してまいります」とコメントされました。



NHK「みんなのうた」特別企画に協力し、学生たちがダンスを披露しました

令和7年10月21日(火)

本学は、NHKのSDGs放送キャンペーン「ひろがれ！いろとりどり」シリーズの一環として制作された「ツバメ」(うた:YOASOBI withミドリズ/振付:MIKIKO)岐阜バージョンの撮影・制作に協力しました。今回の企画には岐阜大学から、ストリートダンス部 MEC、岐大祭マスコットキャラクター「ぎだにゃん」らが参加し、SDGsこどもユニット「ミドリズ」の皆さんと一緒に「共に生きる」大切さをダンスで表現しました。



医学部創立80周年・医学部附属病院創立150周年記念式典を開催しました

令和7年10月26日(日)

本学医学部が創立80年、医学部附属病院が創立150周年を迎えたことを記念し、岐阜グランドホテルにて記念式典を開催しました。式典は、医学部室内合奏団による演奏から始まり、牛越博昭医学系研究科長・医学部長、秋山治彦医学部附属病院長からの挨拶、吉田和弘学長による記念講話、清水雅仁医学部附属病院副院長から医学部80年・附属病院150年の歩みの紹介などがあり、出席した約160名の関係者とともこれまでの軌跡を振り返りました。



七宗町と「休日七宗高校の設立及び運営に関する覚書」を締結しました

令和8年1月23日(金)

岐阜大学地域連携推進本部と七宗町は「休日七宗高校の設立及び運営に関する覚書」を締結しました。本覚書は、令和6年に締結した「七宗町と国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学との連携に関する協定書」に基づき、本学教員が休日に高校に出向き、高校生に対して専門的な講義を行うものです。高度な学びを体験できる環境を提供することで、大学の研究知を届けるとともに、若者の学習意欲向上と地域の未来を担う人材の育成を目指します。



3次元積層造形活用技術開発センター開所式を開催しました

令和8年1月26日(月)

新たに設置された「3次元積層造形活用技術開発センター」は、金属積層造形技術の分野における国内フロントランナー企業や大学・研究機関が結集し、技術開発および社会実装に共同で取り組むことで、その成果を広く発信・展開することを目的としています。開所式には、経済産業省製造産業局素材形産業界長の大今宏史氏、北陸デジタルものづくりセンター所長の芦田極氏をはじめ、共同研究に取り組む参画企業・機関や、本学役員など多数が出席しました。



学生チーム「iGEM Gifu」がiGEM 2025 Grand Jamboreeで金賞を受賞しました

令和7年10月28日(火)～31日(金)

フランス・パリで開催された、世界最大級の学生主体による合成生物学大会「iGEM 2025 Grand Jamboree」において、50を超える国・地域から約400チームが参加する中で、本学の学生チーム「iGEM Gifu」が長浜バイオ大学と合同で結成したチームの「Japan scinet」が金賞を受賞しました。「Preser VEG - Preserve Vibrant Edible Goods!!」というタイトルで、食品ロス削減に向けた新たな合成生物学的アプローチを提案したことが評価されました。



医学部附属病院の畑中勇治臨床講師が外科技術競技大会で世界一に輝きました

令和7年11月4日(火)～8日(土)

医学部附属病院消化器外科の畑中勇治臨床講師が、11月にシンガポールで開催された「MIS Championship 2025」に日本代表チームの一員として出場し、世界一の栄冠を獲得しました。この大会は、腹腔鏡手術を中心とした低侵襲外科手術の精度・スピード・安全性を競うもので、世界各国から選抜された12チームが参加しました。今回の優勝は、地域医療から世界水準の医療へとつながる取り組みを強化する本学の教育・研究の質の高さを示すものとなりました。



「第22回キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」で本学学生が日本MITベンチャーフォーラム賞を受賞しました

令和8年2月24日(火)

「学生起業家の登竜門」と呼ばれる「キャンパスベンチャーグランプリ」の全国大会で、応用生物科学部4年・杉本稜太さんが「日本MITベンチャーフォーラム賞」を受賞しました。杉本さんは「起業部」在籍中に「Umami Japan株式会社」を設立。自社で柿農地を保有し、生産から販売までを一貫して行うほか、海外輸出にも積極的に取り組んでいます。岐阜県特産の富有柿「Umami KAKI」は、国内の高級スーパーやオンラインショップで販売されており、JAL国際線ファーストクラスでも採用されるなど、グローバルな展開が進められています。



インド工科大学グワハティ校で開催された国際シンポジウムに参加しました

令和8年3月7日(土)～11日(水)

吉田学長、リム副学長(国際担当)らが、協定大学のインド工科大学グワハティ校(IITG)を訪問しました。同校で開催された「グワハティJDPシンポジウム」には、大学関係者をはじめ、政府関係機関や産業界関係者など約190名が参加。冒頭では、吉田学長が登壇し、北東インドを軸とした国際共同教育や産学連携の可能性について幅広い議論を交わしました。さらに、本学とIITGを含む北東インドの計21大学による「北東インド・日本大学連携コンソーシアム」の設立に向けた意向表明書署名式も行われ、岐阜大学は日本側の調整機関として参加しました。



※役職名・所属は当時のものです